今日の力

2022 年 3 月 7 日〜3 月 13 日

翻訳　　伊　藤　若　菜

編集　　相　川　忠　義

この冊子の聖句は，新改訳聖書第三版を使用しています。

御　茶　の　水　キ　リ　ス　ト　の　教　会

3月7日(月)

星　の　よ　う　に

聖書朗読　　ピリピ　２：１２〜１８

すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあって傷のない神の子どもとなり、いのちのことばをしっかり握って、彼らの間で世の光として輝くためです。　ピリピ　２：１４〜１６

25 年前、数か月間に渡りヘール・ボップ彗星が肉眼で観察可能となる期間がありました。彗星の出現は、とても感動的な光景でした。当時、主人は天文学に興味があったので、初めて望遠鏡を購入し、ヘール・ボップ彗星の動きを観察しました。

望遠鏡のお蔭で、彗星の細かいところまで二人で観察することが出来ました。そして他の星座や、星座を構成している星にも詳しくなりました。それから 25 年が経ち、私の視力は衰えました。しかし、25 年前に学んだ各種星座の特徴を今なお覚えているので、今でも星空を見上げれば、星座を言い当てることが出来ます。

私たちクリスチャンの働きは、星や星座にたとえることが出来ると思います。クリスチャンは光り輝くことが期待されていますが、一つの星のように（個別に）輝く場合もありますし、複数の星から構成される星座のように、クリスチャンが皆で共に輝く場合もあるからです。この意味において、クリスチャンには２種類の輝き方があると言えましょう。個別に輝く場合は、誰かを教えたり、助けたり、励ましたりすることが出来るかと思います。皆で共に輝く場合は、伝道会や宣教活動などを企画して取り組むことも出来るかと思います。そして、宣教活動のために地球の反対側へ行くことさえあるでしょう。

星空を眺めると、一つ一つの星は小さいですが、暗やみの中で確かに輝いています。そして、その星々が集まって星座を形成します。星座は、一つの星だけで輝いている時よりもさらに明るく輝きます。同様に、クリスチャンも、皆で共に輝くときこそ、より一層輝くことが出来るのではないでしょうか。そして、もし世の人々が私たちの輝きに気が付き、それが神様の光を反射させていることだと気が付いたのなら、これほど素晴らしい事はないと思います。

讃美歌　533

祈　り　神様、あなたが与えて下さった賜物を、あなたの御国のために使うことが出来るようお導き下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

アマンダ・ヴィス
アラバマ州レインボーシティ

3月8日(火)

神 に ゆ だ ね る

聖書朗読　ピリピ　４：４～７

だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。　マタイ　６：３４

今までに「心配し過ぎて損をした」といった経験をしたことはありませんか。時に私たちは、必要以上に心配をしてしまうものです。ルカの福音書10章38節～42節において、イエス様は、必要以上に心配をしているマルタを優しくたしなめています。イエス様は、もてなしのために家事で忙しくしていることについて叱った訳ではありません。しかし、忙しくしているがために主のみことばをないがしろにしてしまったマルタの姿勢を、主は指摘されたのです。その一方、マルタの妹のマリヤは、主イエスの足元に座り、主の言葉に耳を傾けていました。もちろん家事も大切ではあるのですが、マリヤはまず主のみことばに耳を傾けたのです。

私の母は、心配性でした。既に召されていますが、生前は、あまりにも様々なことを心配し、そのため、心配事によって精神的にもかなり疲労していたと思います。また、そんな母を、私たち家族も心配していました。

神様は、イエス様を通して、私たちに平安を与えて下さいます。また、みことばを通して、私たちに平安を下さいます。そして、私たちは祈りを通して、私たちの心配事を神様に知って頂き、心配事を神様にゆだねていくことが出来ます。神様は、差し出された私たちの心配事をしっかりと受け止めて下さり、最善へと導いてくださいます。ですから、そうして下さる神様への信頼を、育ませて頂きましょう。神様が私たちを愛しておられ、最善に導いて下さるという確信を頂いて、その上で、私たちが出来る奉仕をさせて頂きましょう。

この聖句を、心に刻みましょう。「また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてくださいます」（ピリピ4:19)。心配することよりも、まず神様に心の目を注ぎ、心配事を神様におゆだねしつつ、日々歩ませて頂きましょう。

讃美歌　291

祈　り　天におられるお父様、みことばに耳を傾け、あなたにゆだねつつ歩むことが出来ますよう、お導き下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ロン・グロス
コロラド州キャノンシティ

3月9日（水）

良 き お 手 本 と な る

聖書朗読　Ｉテモテ　４：１１～１６

私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。　ピリピ　１：２１

テモテは、パウロとルステラで出会い、親しい友人となりました（使徒 16:1)。その後の数年間で、パウロは、テモテが大変有能であると確信を抱くようになりました。そこで、後にパウロは、テモテをエペソに残し、エペソの教会が直面している困難な課題の対処をテモテに任せました。

またパウロは、テモテを励ますために手紙を書き、テモテがどのように指導者として振舞うべきか（いくつかの具体的な指示を出しながら）アドバイスを送りました（Ｉテモテ 3:15)。テモテは有能でしたが、当時まだ若かったので、その若さゆえに人々から軽く扱われることがないよう、アドバイスを送ったのです。パウロは次のように忠告しました。まずテモテ自身が教会にとっての良いお手本として行動しなければ、教会はモテモテの教えを十分には受け入れないだろう、と。このような訳で、パウロは言葉、態度、愛、信仰、そして純潔さにおいてテモテが模範になることの重要性を強調したのです。そして、（Ｉテモテ）４章最後の節で、パウロは、「自分自身にも教えることにも」気を付けるよう記しています。人々が、テモテを良いお手本として見習うことを、パウロは願ったのです。

私たちクリスチャンにとって、互いに良いお手本・良い模範となることは、とても重要です。「自分がしたくないことを、他人に押し付けるな」という言葉がありますが、これはクリスチャン生活でも同じことが言えるのです。

讃美歌　452

祈　り　神様、私たちの家族、友達に対して良きお手本となれるようにお導き下さい。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジェリー＆リン・ジョーンズ
ミズーリ州セントチャールズ

3月10日（木）

聖　霊　の　働　き

聖書朗読　　ヘブル　１１：３５～４０

私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行きづまることはありません。　　IIコリント　４：８

『今日の力』の読者の中には、現在闘病中の方もおられることでしょう。日々痛みを伴う治療を受けておられる方もいらっしゃるかもしれません。また、健康上の問題ではなかったとしても、何らか試練の中におられる方もいらっしゃることでしょう。パウロも、大いなる試練を幾度も経験しました。パウロの人生には、私たちにとって励ましとなる面が多くあると思います。パウロは、暗くて臭い牢獄で拘束されるという経験をしました。その牢獄には、（当然のことながら）空調設備や電気や下水の設備等はありません。そのような牢獄で、パウロは鎖につながれていました。ですが、驚くことに、パウロはその牢獄で賛美を歌い、祈り、そして他の囚人たちとみことばを分かち合いました。さらには、看守とその家族を救いへと導くという働きまでしています。その牢獄は、物理的には確かに暗い場所でしたが、パウロはイエス様の光を牢獄で照らしたのです。

「パウロはまれに見るような優れた信仰の持ち主だったので、そのように振舞えたのでしょう」と、思う人もいるかもしれません。確かにパウロは優れた信仰の持ち主だったと言えましょう。しかし、もう一つ言えることがあります。それは、パウロの優れた信仰は、聖霊の働きによるものであり、同じ聖霊が、私たち一人一人にも宿っておられるということです。

ヘブル人への手紙11章37節をぜひお読みください。そこでは、（古代の人々を苦しめた）想像を絶するような試練について書かれています。パウロや彼らの経験した試練について考えながら、次のことを心に刻みましょう。「今、私たちもそれぞれ何らかの試練の中にいるけれども、私たちの内にも聖霊なる神様が居て下さっている」ということを。（私たち一人一人は小さな存在かもしれませんが）聖霊なる神様が、私たちを導いて下さいます。そして聖霊なる神様が、私たちを強め、困難な状況にあっても私たちが前進出来るように助けてくださいます。そして最終的には、天の御国の住まいへと私たちを導き入れて下さるのです。

讃美歌　298

祈　り　神様、私たちと共にいてくださり、私たちを強め、導いてください。天の御国の住まいを用意して下さっていることに、感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ラレンダ・ライルス・ロバーツ
アリゾナ州メサ

3月11日（金）

信　仰　の　継　承

聖書朗読　　ヘブル　１２：１８～２９

この救いについては、あなたがたに対する恵みについて預言した預言者たちも、熱心に尋ね、細かく調べました。　　Ｉペテロ　１：１０

ヘブル人への手紙の著者は、イエス様を救い主として受け入れて歩むことがどんなに素晴らしいことかを、読者に伝えようとしています。私たちは、（旧約聖書時代の）イスラエル人たちと同じ仕方で神様を恐れる必要はありません。なぜならば、イエス様の血潮により、私たちと神様との関係が回復しているからです（ヘブル10:19-25）。私たちは、罪がきよめられていますから、神様の御前に立つことが許されており、神様との交わりを持っています。さらに、この「神様との交わり」は今を生きる私たちだけのものではなく、（既に天に召された）信仰の先達たちも共有している交わりです。その意味で、私たちは信仰の先達たちとも信仰を共有していると言えましょう。

私たちは皆、信仰の先達たちが歩んだ「主の道」と同じ道を歩んでいます（いわば、彼らが歩んだ「道の続き」を私たちが今歩んでいます）。そう思うと、私は、私たちよりも先に歩んだ先達たちへの感謝の思いが沸き起こります。身近なところでは、（私を信仰へと導いてくれた）両親に感謝します。また、私の人生で出会った多くの信仰者たちに感謝します。その中には、既に召された方々も多くおられ、それらの方々と地上でお会いすることはもはやできません。ですが、私たちが信仰の歩みを全うすることによって、彼らへの敬意を表すことが出来ます。

それだけではありません。私たちが信仰の歩みを全うすることは、信仰の先達たちが捧げてきた奉仕を私たちが受け継ぐことでもあるのです。それは、モーセやエリヤ、使徒たちの信仰、そして何よりもイエス様がしてくださったことを、私たちが証ししていくことなのです。

讃美歌　529

祈　り　親愛なる神様、イエス様の血潮によって私たちがきよめられ、私たちが父なる神様の御前に立つことが許されていることを感謝します。イエス様の恵みに生きるという特権を感謝します。このことがどんなに素晴らしいことであるのか、さらに深く知ることが出来ますように。私たちの信仰の先達たちを感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

アール・Ｄ・ラベンダー
テネシー州ブレントウッド

3月12日（土）

十 字 架 を 誇 る

聖書朗読　Ｉコリント　１：２０～２５

しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。　ガラテヤ　６：１４

こんにち、私たちは十字架をいたるところで目にします。多くの教会堂で、さらにはネックレスやネクタイピン等の装飾としても目にします。現代において、十字架はキリスト教のシンボル的存在となり、十字架の形をした装飾品を身に着けることで、個人の信仰を表わしている人もいます。

しかし、1 世紀のクリスチャンはそうではありません。彼らにとって、十字架は犯罪者の処刑のしるしでした。礼拝所を十字架で飾ったり、十字架を身に着けたりすることは、（１世紀の人々にとっては）処刑の道具で礼拝所を飾るようなものでした。現在とは全く感覚が違いますね。しかし、（処刑の道具である）十字架こそ、人が目をそむけたくなるような人間の罪深さを最も表しているのではないでしょうか。ちなみに、１世紀のクリスチャンたちの多くは、魚をクリスチャンのしるしとして用いることが多かったようです。もしくは、若い男性が羊を抱きかかえている絵をしるしとして用いることもありました。

１世紀の時代、十字架はそれ程までに人々が目を背けたいものでした。それにもかかわらず、パウロは「神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです」（I コリント 1:25）と述べ、「十字架を誇りとする」（ガラテヤ 6:14）とさえ言うのです。なぜでしょうか。それは、主イエスが「自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われ・・・私たちが罪を離れ、義のために生きるため」（I ペテロ 2:24）だったからです。そして、「キリストの打ち傷のゆえに」私たちはいやされたからです（I ペテロ 2:24）。

讃美歌　495

祈　り　主よ、皆を心から賛美するようお導き下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

スティーブン・Ｓ・レムリー
共同編集者

3 月 13 日（日）

勇 敢 な エ ス テ ル

聖書朗読　エステル　３：５～４：１７

「行って、シュシャンにいるユダヤ人をみな集め、私のために断食をしてください。三日三晩、食べたり飲んだりしないように。私も、私の侍女たちも、同じように断食をしましょう。たとい法令にそむいても私は王のところへまいります。私は、死ななければならないのでしたら、死にます。」　エステル　４：１６

エステルは、大変な美人でした。ですが、大変な美人であることを除けば、彼女はそれほど目立つ女性ではなかったかもしれません。しかし、モルデカイによってある重大な知らせが伝えられた時、彼女は大変大胆な行動に出ました。その知らせとは、（ペルシヤ王の権限を利用して）すべてのユダヤ人を滅ぼそうとする陰謀がある、という恐ろしい知らせでした。エステルは、自分がユダヤ人であることをこの事件が起こるまで隠していました。ですが、陰謀を聞き知ったエステルは、今こそ自分がユダヤ人として立ち上がり、陰謀を阻止するべきだと考えました。彼女は、命を懸けて挑むことにしました。また挑むに際して、エステルとその側近たちは、主の前で三日三晩断食しました。彼女は、その危機的状況の深刻さをよく理解していたのです。

エステルはとても賢い人でした。衝動的にではなく、彼女の持てる機知と知恵を駆使して、ペルシヤ王に効果的に働きかける策を考えました。エステルは、きわめて論理的に陰謀について説明し、証言に基づいて陰謀を立証しました。そして、王が陰謀阻止のために動いてくれる絶好のチャンスを待ちました。

エステルが勇気を振り絞って、ユダヤ人を守るために行動に出たことは、まさに英雄的行動と言えましょう。エステルの行動により、ユダヤ人滅亡の危機が回避されたからです。エステルの養父であるモルデカイは、エステルに次のように言っていました。「あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、この時のためであるかもしれない」（エステル 4:14）

私たちにも、同様の問いが投げかけられているかもしれません。今あなたに与えられている職場、そして今あなたに与えられている時間――これらは、神様が何らかの大切な目的のために、あなたに備えて下さった職場や時間である可能性もあります。神様が勇気を与えて下さり、私たちが、職場や時間、その他与えられている恵みを神様のために用いることが出来ますように。

讃美歌　II 編 188

祈　り　神様、エステルのように勇気と的確な知恵を私たちにも授けて下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

エミリー・Ｓ・レムリー
共同編集者